

施策評価シート (平成27年度の振り返り、総括)

作成日 平成28年 06月 22日

施策 No.	10	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	生涯学習課、健康増進課、社会福祉課、いきいき高齢課		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	31年度見込
人口	人	82,997	82,584	82,136	81,511	80,929	80,698	80,590	80,200

施策の意図	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力のある生活を実現する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	市民意向調査の結果及びスポーツ振興課の集計により把握する。								
成果指標名	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	31年度基本計画目標値
何らかのスポ・レクを行っている市民の割合	%	55.4	54.8	49.6	50.5	48.9	47.3	60.7	55.0
市スポーツ施設利用者延人数	人	479,683	473,299	449,285	547,695	545,068	537,883	580,157	580,000
スポーツ教室数	教室	16	17	16	23	34	34	29	30
参加人数	人	436	451	546	594	701	684	657	700

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、スポーツ・レクリエーションを自主的に行う。 行政は、スポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と施設などの環境整備の充実を図る。								
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は、平成25年度：48.9%、平成26年度：47.3%、平成27年度は前年より13.4ポイント増えて60.7%である。  
・市スポーツ施設利用者の延べ人数は、平成25年度：545,068人、平成26年度：537,883人、平成27年度は前年より42,274人増えて580,157人である。  
補足事項参照

(2) 近隣他市との比較

・「栃木県政世論調査」のスポーツ活動実施率（週1日以上スポーツをしている比率）は平成25年度：39.8%、平成26年度：38.4%、平成27年度：38.8%である。  
また、総合計画等に掲載されている「週1日以上スポーツ等を実施している」という数値は、下野市が51.7%（H26）、小山市が53.7%（H25）、栃木市が66.7%（H26）、日光市が47.7%（H27）である。  
真岡市の「市民意向調査」でのスポーツ・レクリエーションの実施率は平成25年度：48.9%、平成26年度：47.3%、平成27年度：60.7%であり、県全体や他市と比べ、比較的高い水準にある。（ただし、本市の調査は「週何日以上実施している」という設問ではないので、単純に比較はできない）。

(3) 住民期待水準との比較

・市民意向調査によると、今後何らかのスポーツを始めたいと思っている割合は、前年より3.7ポイント増えて61.9%である（昨年度は58.2%）。  
市民意向調査における、今後始めたいスポーツ・レクリエーションの上位は  
1位ウォーキング：14.7% 2位筋力トレーニング：13.4% 3位ハイキング：9.7%  
4位水泳：8.6% 5位サイクリング：8.2%である。  
（「日ごろどのようなスポーツ・レクリエーションをやっていますか」の質問には、ウォーキングが28.1%、次いでゴルフが11.1%である。）

27年度の  
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・スポーツ・レクリエーションへの取り組みのきっかけとして、各種スポーツ教室を開催している。  
・教室数と参加者数は、平成25年度が34教室、594人、平成26年度が34教室、684人、平成27年度が29教室、657人の参加があり、内容についても、子ども向け、親子向け、一般向けと年齢・性別を問わず参加できるものとしている。  
・子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの参加が少ない傾向であることから、子どもと一緒に参加できる親子スポーツ教室として、卓球やサッカー、わんぱく親子スポーツ教室（トランポリン・スマイルボーリング、スカイクロス・スポーツ吹き矢等）などを実施した。  
・生活習慣病の一つであるメタボリックシンドロームの予防と改善に繋げるために、フィットネスインストラクター等の指導による『すっきりメタボ解消教室』を健康増進施設真岡井頭温泉に委託し、4日間開催し、延べ213人の参加があった。  
・市民意向調査の結果、ウォーキングをしている市民、今後ウォーキングを始めたい市民が多いことから、安全なコース、コースの距離・所要時間や歩数等を示した『ウォーキングマップ』を作成した。  
・スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、平成23年度から整備を進めている総合運動公園（真岡市小林地内：全体整備面積26.6ヘクタール）において平成26年度には陸上競技場とサッカー場を供用開始した。また、平成27年度には夜間照明設備を備え、陸上競技・ソフトボール・サッカー等に使用できる多目的広場、大型複合遊具を設置した子ども広場、健康遊具を設置した健康広場が完成した。  
・平成26年9月から、総合体育館内の北西部（受付の右奥）に女性専用トレーニングルームを開設したところ利用者が増加した。  
・平成26年4月に、子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツを楽しむことを目的に設立する『総合型地域スポーツクラブ』の設立準備委員会を設置し、陸上教室を中心に創設プレ事業を21回開催し、延べ317人の参加があり、平成28年3月12日には『もおかスポーツクラブ』が設立された（平成27年度、市内にもう一つの『総合型地域スポーツクラブ』が設立された）。

27年度の 評価結果	3. 施策の課題認識と改革改善の方向
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民意向調査によると、今後行ってみたいスポーツ・レクリエーションとして、ウォーキングや筋力トレーニングの割合が高いため、ウォーキング教室や筋力トレーニング教室を開催する。</li> <li>・ 子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの参加が少ない傾向であることから、子どもと一緒に参加できる教室として、ショートテニス、トランポリン、スマイルボーリング、スカイクロス、スポーツ吹き矢等のニュースポーツの教室を開催し、スポーツ・レクリエーションに取り組む機会を増やす。</li> <li>・ 総合運動公園において完成した、子ども広場、健康広場、多目的広場、相撲場を適宜、供用開始していく。</li> <li>・ 引き続き、スポーツ・レクリエーションの活動拠点として、総合運動公園整備計画に基づいて都市計画課及び関係団体等と連携を図りながら、平成28年度から平成30年度までの3か年で、弓道場、クラブハウス、オムニコートのテニスコート、スケートボード場、ローラースケート場、屋外トイレ、園路等を順次整備していく。</li> </ul>

補足事項

1. 施策の成果水準とその背景

(1) 施策成果の時系列比較の補足資料

各体育施設の利用状況（延べ利用者数：580,157人）内訳

1 体育館 延べ164,254人

総合体育館：58,637人、武道体育館：32,264人、スポーツ交流館：45,817人、附属体育館：7,768人  
弓道場：2,019人、二宮体育館：9,427人、二宮弓道場：157人、地域体育館：8,165人

2 運動場 延べ199,080人

東運動場：12,106人、北運動場：36,029人、市民公園：21,295人、大谷台公園：8,001人  
三ツ谷公園：3,712人、勝瓜公園：11,724人、松山公園：2,615人、鬼怒自然公園：36,438人  
暫定広場：17,986人、二宮運動場等：28,800人、きぬわいわい広場：5,804人、総合運動公園：14,570人

人

3 学校体育施設 延べ216,823人

小学校体育館：69,322人、小学校運動場：105,127人、中学校体育館：13,558人、  
中学校柔剣道場：19,518人 真岡工業高校（夜間）：9,298人

上記、1 体育館、2 運動場の利用について、種目別集計（平成27年度分から実施）

【体育館】1位バドミントン：17.7% 2位ダンス：16.6% 3位卓球：14.3% 4位バレーボール：7.8%  
5位フットサル：7.1%

【運動場】1位サッカー：39.4% 2位軟式野球：25.8% 3位グラウンドゴルフ：10.0%  
4位陸上競技：6.1% 5位ソフトボール：5.8%